

川辺高同窓会報

発行
川辺高校同窓会本部
発行所
〒897-0221
南九州市川辺町田部田 4150
TEL0993-56-1151
FAX0993-56-1152
県立川辺高等学校

更なるお力添えで 母校の発展と飛躍を!!



市長 同窓会会長
大坪 憲 市

わが母校は明治三三年の春、地域住民の熱意で創立され、一一五年の歴史と伝統を誇り、二万数百名を輩出した、鹿児島第四中、鹿児島県立川辺高等学校であります。

全国各地、各分野で大活躍されている同窓会会員の皆様には、いつも母校に対して熱い思いを賜り、更にご支援・ご協力をいただき誠にありがとうございます。

母校は、平成二七年度募集者一二〇名（三クラス）に対し、一〇四名の入学人数となり大変な危機状況にあります。この状況を打破するためには、学校側・PTA・行政・地域住民が一体となり、川辺高校存続に向け全力を挙げる必要があります。

南九州市内の中学生のうち、市内にある三県立高校への入学者が四割で、六割の生徒が市外の高校へ流出していることから、中学校側へのアピール不足が現況を招いたのではないかとの反省点のもと、中学・高校との連絡協議会等を開催。また、PTAでも中学・高

校の話し合いを行っていただきます。部活動の更なる交流など、積極的に行ってもらっています。

本年度の国公立大・短大入学人数は二五名と健闘してくれました。また部活動でもなぎなた部が大阪府立体育館で開催される全国高校体育大会へ出場、水泳部の下久保美佑さんも全国インターハイへ出場します。かわなべ青の俳句大会学校賞も九年連続一二回目の受賞、全国「言の葉大賞」を萩原千聖さんが更に学校賞も受賞等々、大活躍してくれております。

このように学業に部活動にと生徒の皆さんが頑張っており、今少しずつ上げ潮ムードに乗りはじめており

ます。
川辺高校の頑張りを地域住民に理解してもらうために、ブログや市報、新聞などでいろいろな情報を発信しております。

いかにして中学生の目を本校に向けさせるか。今年も七月二四日・八月二〇日に体験入学がありますが、同窓会・PTAで参加者に対し、川辺高校のアピールを行う予定です。また、入学した生徒をいかにして伸ばし鍛えるか。いろんな考

不易なる精神

陣が丘からの風



昭 浩 敷 屋 小 校 長

今年は梅雨入りしてから連日のように雨が降り注ぎ、甚大な被害が懸念され

えをお聞かせください。良いと思われることは早急に対応して参ります。母校川辺高等学校は、地域に密着した存在感のある学校、歴史と伝統ある母校が今、存亡の危機にあります。

今後、中高一貫教育等を視野に入れながら、PTA、行政、地域住民が総力を結集し、母校存続のために絶大なるお力添えをいただきますよう、お願い申し上げます。

るほどでした。台風の通過とともに、強烈な日差しが水平線と青空に交錯しながら眩しさを増す日々が続き、ようやく例年通りの季節が到来しました。同窓会会員の皆様方におかれましては、ますます御健勝のことと拝察いたします。日

ごろから教育活動充実のため、深い御理解と御支援をいただいておりますことに對し、この場をお借りして心から感謝の意を表します。本年も各地から同窓生並びに関係者の方々が参集され、本部同窓会総会が盛大に開催されますことはこの上ない喜びであり、重ねて御礼を申し上げます。

ところで、いちき串木野市の羽島沖に浮かんだ一隻の蒸気船「オースタライエーン号」に薩摩藩の若者一九人が乗り込み、イギリスに向けて出航したのは、今から一五〇年前、一八六五年四月の出来事です。当時、薩摩藩では生麦事件や薩英戦争での教訓を踏まえ、藩産業の近代化を図るとともに西欧の近代技術や知識を獲得することが急務とされていました。この

一三歳から三二歳までの若者たちは、どんな思いを胸に抱いて大海原に飛び出したのでしょうか。未知なる世界への不安、将来への絶望、課せられた使命に対する覚悟、家族や伴侶への思いなど、様々な重圧や後悔の念が錯綜していたに違いありません。帰国後、それぞれの覚悟と志を貫いた彼らは、日本の近代産業の礎を築き、国家の中枢を担う役割を果たしています。困難なことでも覚悟をもつて挑戦し、現状を変えていくというとする情熱は、教育においても大切な精神なのかもしれません。

明治三三年（一九〇〇年）四月二六日、本校は鹿児島県第四中学校として現在地に開校しました。当時発行された鹿児島新聞には、「眺望誠に佳絶清絶、學生薫陶の境としては申分なし」と開校を祝う記事の一節が掲載されています。その言葉どおり、南薩の地に発足した中学は、神戈陵とともに時代の変遷を一步一步

と乗り越え、質実剛健の気風と進取の精神を伝統として育んできました。それは一一五年の時を迎えた今もなお、神戈陵魂として本校で学んだ者の心に揺るぎない精神として脈々と受け継がれ、確固たる位置を占めています。学界、政財界、教育界など、各界各層で活躍しておられる同窓生の方々の母校に対する思いと懐旧の情は、人生の重要な時期をこの場所で学び、真剣に生きてきたことの「証」に他なりません。だからこそ、掛け替えのない宝として母校は存在するのだと思います。

現在、学校では生徒会執行部を始め、すべての部活動が新体制となり、野球、サッカー、ソフトボール、テニス、バレー、バスケットなど、元気なかけ声とともに黙々と汗を流している姿、体育祭のパネルを苦心しながら描いている姿、楽

器を懸命に練習している姿がいつものように見受けられます。時代が推移して取り巻く環境も変わっていますが、集う生徒が交代しても培われる精神はいつの時でも継承されているはずで、この平野に盛り上がった小高い陣が丘に立った時、一世紀を超える卒業生たちの魂の聲が、後輩たちの心にきつと響いているに違いありません。

四月七日、澄み渡る青空の下、御来賓、保護者、在校生一同が温かく見守る中、第七〇回入学式を挙行し、一〇四名の新入生の門出を祝しました。伝統ある制服を身に付けた新入生たちは、高校生活への希望と決意に満ちた表情で節目の式に臨んでいました。限りない可能性を秘めた生徒たちが花開くためには、校訓の具現化を図ることはもちろんですが、高い志を掲げ、「忠実奮つて自学せん」の

精神のように、何事にも主体的に挑戦することが肝要です。一方、生徒一人一人のニーズに応じた教育環境や指導体制を整え提供することが、学校に課せられた責務であります。本校では生徒の夢をサポートするために、全職員が理念を一つにして丁寧な教育活動を展開しており、大変ありがたいと思っております。この風土も伝統に支えられています。

ところで、進路状況ですが、今年の卒業生から三学級になり卒業生の数が減少しましたが、一定の成果を発揮してくれました。熊本大学、宮崎大学、山口大学、北九州市立大学などの国立大学に一二名（過年度卒一名）、公立短期大学に一三名が合格しました。また、関東、関西、福岡、熊本、鹿児島等の私立大学に四〇名（過年度卒四名）が合格しています。その他、

私立短期大学、専門学校などにも多くの合格者が出ています。また警視庁などの公務員をはじめ、就職面も頑張ってくれました。こうした成果は、教師の指導に素直に従い、最後まで粘り強く取り組んだ努力の賜物だと思えます。ただ、結果を真摯に受け止めて工夫と



改善をしながら、職員一丸となつて生徒の個性に応じた細やかな指導を徹底させたいと思います。今年度も生徒たちが、講演会、大学の出前授業、神戈陵塾など、本校でのあらゆる教育活動に触発され、「伸び率No.1」を胸により高い進路実現を成し遂げてくれることを願っています。

部活動ですが、なぎなた部が今年度も県大会で、演技・競技いずれも団体・個人で連覇を達成し、全国高校総体や国民体育大会等での飛躍が期待されます。水泳部も、三年生が九州高校総体で派遣標準記録を突破し、全国高校総体への出場が決定しました。野球部は、一五年ぶりにNHK旗高校野球大会に出場するなど、元気を提供してくれました。ソフトボール部も県大会で久しぶりの一勝をあげました。また、四月には加世田高校と、初のスポー

ツ交歓会を開催し、全校応援で熱戦が繰り広げられ、愛校心の醸成や士気の向上を図ったところです。

文化面でも、「かわなベ青の俳句大会」で、九年連続一二回目の学校賞を、全国の一言の葉大賞」では個人大賞と併せて学校賞を受賞するなど、日ごろの成果を発揮してくれました。さらに二日市当日には、生徒が番組制作に係わって地元ラジオ番組に出演したりと元気な姿を発揮しています。

最後になりますが、地域により期待される学校となるよう、生徒・職員が心を一つにして教育活動を展開してまいります。これまで同様、深い御理解と御支援をお願いいたします。

川辺高校のさらなる飛躍と、本部同窓会のますますの御発展を祈念申し上げます。

東京同窓会

堂園 俊秋
(昭和三八年卒)

昨年夏には、平成二六年度全国高等学校総合文化祭が水戸市で、全国高等学校総合体育大会が南関東の各地で開催されました。

東京同窓会では、これらに遠征してこられた生徒さんたちへ「サポート募金」を募り支援をいたしました。また多くの東京同窓会会員が応援に駆け付け、熱い声援を送り、まさに会場と応援席が一体となった様は、母校との連帯感が深まったひと時でもありました。

平成二七年六月二十七日(土) 心配した雨もすつかり上がった中、新宿ワシントンホテルにて第三九回東京同窓会が開催されました。

総会に先立ち昭和四七年卒井上純一さんの司会で恒例の特別講演会があり、「年

金のおはなし」のテーマで平成六年卒の社会保険労務士、有村公美子さんに講演していただきました。

現役世代はもちろん現在給付を受けている世代にも分かりやすく参考になるお話が多く、会場の皆さんは真剣に聞き入っていました。

総会には昭和四七年卒川平悦郎さんと若松博文さんの司会で開始され、冒頭物故者に黙祷が捧げられました。

総会には大坪憲市本部同窓会会長、小屋敷浩昭校長、渡辺裕介先生及び恩師の下茂道人先生や近隣故郷会のご来賓をお迎えし、会員を合わせて二二四名が参加されました。

大平会長より「生徒数の減少は残念ですが、進学、



図師田格さんを議長に選任し役員改選原案が報告され承認されました。

新役員を代表して大平会長より「会務・規則に則り同窓生の皆様の親睦に貢献します」とのご挨拶と新役員の紹介がありました。

昭和四十七年卒片平英一さんと砂走智生さんの司会で懇親会に移り、来賓の紹介のあと大坪憲市本部同窓会会長より「母校に対する心使いや支援に感謝します。入学者も近年の九〇人台から今年は一〇四人と増え、少し明るい兆しが見えてきました。この七月に中学生向けに高校体験会が予定されていますが、川辺高校の良さと先生方のご努力により学業は伸び率県下No.1をアピールしていきます」とのご挨拶を頂きました。

部活動では成果を上げています。全国大会に出場するケースも多く、東京同窓会も母校の応援に取り組んでおり、同窓生の皆さんのご協力に感謝いたします。是非今日は大いに楽しんで下さい」とのご挨拶がありました。

大平会長を議長として議事に入り担当幹事より会務報告、会計報告、会計監査報告がなされ全て承認されました。次に昭和四十七年卒

りましたが、生徒たちには『元氣を出せ』『声を出せ』『地域の皆さんが見守ってくれているんだ』と機会ある毎に話しています。学校も一人一人の生徒達に手が届く教育が出来るようになっていきます。また各部活もこれまでの実績から一つ二つ上の段階にきています」とのご挨拶をいただきました。

なお先生から、この春東京に進学した平成二十七年卒山下蒼介さんの紹介があり、本人の自己紹介には満場の先輩達から暖かい拍手が送られました。

引き続き、今回の同窓会の準備、運営に取り組んでいただいた昭和四十七年卒の担当年度幹事の紹介があり、感謝の拍手が送られました。

昭和二十七年卒中禮俊則さんの乾杯の音頭で懇談に移りました。今年も故郷から直送された定番のつけ揚げ、芋天、こんにゃくなどの郷土料理が各テーブルに並べられ、あと次々とコース料理が運ばれてきました。今年は料理をこれまでのビュッフェ方式から卓盛に変更し会員の利便性向上に努めました。料理を取りに行く手間がいらない分、懇談の時間がより多くとれたような思いがしました。

ゆつたりとした地謡 三線、太鼓に合わせて「新道工イサーたこらいす」の皆さんが登場してイベントの第一部が始まりました。昨年に続いてのエイサーでしたが、特に後半では各テーブルの間に入り「踊るあほうに見るあほう。同じあほうなら・・・」に誘われ同窓生も踊りの輪を作っていました。

第二部は知覧、川辺、南さつま出身者からなる「関東さつま南の会」の皆さんによる踊りで、南九州音頭、ハンヤ節、おはら節を披露して頂きました。こちらも同窓生が踊りの輪に加わり会場内はいやがうえにも盛り上がりしました。

懇親会の最後に新旧校歌を高らかに斉唱し、昭和二五年卒松田健三郎さんの力強い万歳三唱のあと南谷副会長より「来年は第四〇回という記念の同窓会で、大平会長以下企画を練りに練って皆さんをお待ちしますので、ぜひ来年もよろしくお願いします」との締めめの挨拶で閉会しました。

関西同窓会

大園 早夫
(昭和四一年卒)

平成二十六年度の川辺高校関西同窓会は十一月九日(日)に、生憎の雨模様

の中、例年通り大阪環状線弁天町にあるホテル大阪ベイトワにて開催されまし



た。今回来賓として、小屋敷浩昭校長先生、中尾龍二先生、亀甲俊博本部同窓会会長代行、そして一〇〇周年・一一〇周年記念行事を取り仕切っていただいた長野守雄先生（四二年卒）をお迎えし、三二名の参加で開催致しました。

第一部の総会では、岩屋口大造会長から四名のご来賓に対し、ご多忙の中ご臨席いただいたお礼と、段々と高齢化して活力が失せて

しまっている現状を打開し、もっと元気のある同窓会運営に力を注ぎたいとの抱負が述べられました。今年は会長自ら若手に参加を呼びかけて二〇代の若手の参加を得ました。関西同窓会は昭和二〇年代卒業の元気な八〇才台の大先輩達に多く参加いただいて、まだまだ若手には負けないと長老の気概を示しています。会計報告と監査報告の総会行事を終え、活動報告では年一回の総会以外に特別な活動を行っておりませんが、同窓会は母校を誇りに思い心の置き処として生きている原点であり、ご参会の皆様「生きる力」にもなっているとの話を致しました。東京同窓会が二〇〇余名の参加で大盛況であったことをうけ「負けたらあかんで東京に」と来年は倍増を目指して頑張ろうと、そのための企画提案をお願いして活動報告としました。

懇親会の第二部では小屋敷校長先生から、川辺高校の現状について詳しいご報告がありました。進学状況については、国公立大学二五名の現役合格者の他、関東関西の有名私大への合格者を出すなど実績を上げるべく努力していること、生徒数比から見ると合格率はかなりの高率で「伸び率No.1」は誇れる数字であること。そのために教職員は必至で夜遅くまで生徒たちの個人指導に当たってくれている現状を語ってくれました。また部活動の水泳部・なぎなた部・全国総合文化祭出場の音楽部以外にボランティア活動に頑張っていることの報告、とりわけ硬式野球部の今夏の成績について、強豪のチームを連破しひよつとしたらと期待を抱かせる快進撃だったこと。これも一昨年木原大先輩提唱の「ピッチングマシーン」贈呈効果なのか久

し振りの三回戦進出に喜び合いました。なんとも我が川辺高校が県内の強豪と戦えるほどになったことの報告には会場が沸きました。また、強豪でなる我なぎなた部も健在で、たまたま全国大会出場の鹿児島県選手団の人たちと大阪への飛行機で一緒になり川辺高校卒業の選手に激励の言葉を交わす場面があったとの話もありました。学業にしても部活にしても、優秀な成績を修めるにはそれなりの準備が大事、怠りなく準備し期待に応えたいとのことのお話がありました。

会長代行で出席いただいた亀甲俊博さんは、ご存知ダイオキシンの対策でごみ対策に奔走した話から「信念をもって対策」にあたり現状打破の行動を率先したことは、川辺高校卒の根性・魂のお蔭と話されました。会長のお蔭として、少子化の中で生徒募集に苦労している状況の中でも、今年は伝統ある川辺高校の面子が何とか保たれた。高校再編は避けられないが、これも学校関係者、同窓会などが連携すれば川辺高校の発展存続は成し遂げられると語ってくれました。

本校から同窓会係として出席いただいた五二年卒の中尾龍二先生には学校概況報告や川辺高校だよりなどの報道切抜きの詳しい資料を用意いただきました。近況報告の逸話として川辺高校の門前で躊躇していた年配者が「自分の出身校とは関係ないが、親父が自慢していた川辺高校はどんな所か訪ねてみたかった。なるほど凛とした歴史を感じ」と感慨深く話した様子には、「同感」と皆さん納得顔でした。

懇親会の部に入り、昭和二二年卒の大先輩の鎌田稔さんのご発声で乾杯。母校の隆盛を祈念した乾杯のご

発声をいただき開宴となりました。引き続き開宴直後に創立一〇〇・一一〇周年を切り盛りされたご来賓の昭和四二年卒長野守雄先生は、さすが「同窓会の営業マン」と自己紹介されたように、川辺高校の歴史を、詳しくご紹介いただきました。初めて聞く話も多く多くの方から質問が出され、都度丁寧にお答えしてくれました。長野先生はサービスピ精神が旺盛で、参加者各個人に名前入りの「押し葉のラッピングしおり」プレゼントまでいただきました恐縮しました。先生は「目配り、気配り、心配り」をモットーとしており、これからの人生にも必要であろうとの教訓をいただきました。

ご来賓の方々からいただいた地元焼酎を飲みながら、やはり母校を盛り上げようとする参加者から一言の時間になると、大先輩方ははじめ異口同音に母校の誇りを語ってくれました。多くはやはり南薩の雄として、文武両道で頑張ろう。数日前に他界された川口幹夫元NHK会長は母校の先輩であり、ノーベル賞受賞の赤崎勇名大名誉教授は故郷の先輩で世の中で活躍されていることは自分のことのように嬉しく誇りに感じる。やはり川辺高校は卒業した各人の心の原点になっているようでした。初参加の平成一六年卒岩田さんや若手の西野さん（平成一二年卒）も、これからの人生に同窓会での盛り上がりを経験に頑張りたいと話していただきました喝采でした。圧巻は川辺高校関西同窓会のマドンナ門園富美子さんの登壇です。「美貌は努力して造られる」と語ってくれた彼女は、還暦を迎えてもますます美しい姿で、流石カラープロジューサーとしてハイセンスな服装で「色彩と健康」について話し盛り上げてくれました。種々活動してき

たが、ここで「別のステージに立ってみたい」と独身卒業でパートナー募集宣言に挙手する大先輩に会場は沸き立ちました。

参加者はやや少なかったが、同窓会は盛り上がり、記念撮影の後、松蘭滋さんの音頭で同期の面々と若手が舞台上がって一緒に校歌斉唱。また皆さんと来年の関西同窓会での再会を誓って散会しました。母校と同窓会の発展を祈念し報告とします。

福岡同窓会

平成二六年一〇月一八日
(土)、天神市街を見下ろす

福岡国際ホール一六階「志賀の間」で、第二六回福岡

同窓会が開催されました。本部同窓会からは大坪憲市同窓会会長の代理として、亀甲俊博同窓会評議員（昭和四七年卒）が出席しました。本校からは、小屋敷浩昭校長先生、中尾龍二同窓会係（昭和五二年卒）が出席し、昭和三十一年卒の先輩から平成一七年卒の後輩まで総勢三三名（二次会からの参加者一人含む）での同窓会となりました。

本田正郎さん（昭和三一年卒）の軽妙な司会進行のもと、上野修一福岡同窓会副会長（昭和四三年卒）の開会のことばをスタートに会が始まりました。産業医科大学副学長であり産業医科大学病院の病院長にも就任された佐多竹良福岡同窓会会長（昭和四三年卒）は、知覧町下郡出身の赤崎勇先生のノーベル物理学受賞を話題にされながら二時間楽しく過ごしたいと挨拶されました。来賓あいさつで

は、大坪会長代理として出席された亀甲さんが、川辺高校は頑張っているという大坪会長のことばを伝えました。また、県内各地から生徒が集まってくる学校を目指して欲しい。校歌・校訓に謳われている内容を実現できるシステム作りを考えていく必要がある。ご協力・ご支援をお願いしたいと挨拶されました。次に、小屋敷校長先生から、ここには昭和三十一年卒の方から平成一七年卒の方が集ってきている。この約五〇年というつながりを見ると感慨深いものがある。各地区の同窓会に参加するたびに熱き思いが伝わってくると挨拶され、母校の近況報告として、全国大会に出場した部活動や大きな話題になった文化祭での一年生の爪楊枝アートに触れ、最後に、母校のことを話題にして欲しい語らいの場にして欲しいと締めくくりました。



亡師亡友への黙祷のあと、福岡同窓会恒例の校歌斉唱（旧制中学校校歌一番・二番、新制高校校歌一番（四番）、上木原純一郎さん（昭和四三年卒）の乾杯の音頭と続き、歓談となりました。しばらくしてから、司会進行が堀内勉副会長（昭和四二年卒）にバトンタッチされ、「あいやこ

いやらの近況報告」となりました。出席者の皆さんが、おしゃべりすることなく近況報告を聞き入ったり、機知に富んだ合いの手を入れたりする様子を拝見しながら、福岡同窓会の皆様の絆の強さを感じるひと時になりました。時間はあっという間に過ぎ、これも福岡同窓会恒例の「輪になっても一度校歌斉唱」、南谷洋至事務局長（昭和四九年卒）の一度見たら忘れられない「万歳三唱」、堀内副会長の「閉会のことば」で、予定時間を大幅にオーバーしてのお開きとなりました。（この後、同窓生の皆様はこれも恒例のモツ鍋屋での二次会に向かいました。）

最後に、貴重な時間を過ごさせていただいたことに感謝し、ここに報告いたします。

※この記事は本校ホームページに掲載したものを再掲したものです。

宮崎同窓会

和田政吉
（昭和四三年卒）

「ああ悠遠の陽に映えて
ほのぼの明くる三州の 秀麗の気のあるところ 見よ
や希望の神ヶ丘 夢美しき
若人の ここ揺籃の新天地
・ ・ ・」更に「高千穂
笠沙神代より偉績かがよう
三州の・ ・ ・」という旧校歌・
新校歌の力強い歌声がホテル内に響いた同窓会。

第二十七回川辺高校同窓会宮崎県支部総会並びに懇親会は、平成二十七年一月二十五日、宮崎駅に近い「ホテルスカイタワー」にて盛大に開催されました。

宮崎同窓会は、大坪學同先輩方の多大なご尽力により昭和六十三年第一回同窓会総会が開催されてから今回で二十七回目を数えます。

当日は、ご来賓者として宮原楊子同窓会監事、小屋

敷浩昭校長先生、中尾龍二先生をお迎えし、支部会員八名が参加しました。

松山幹事長の愉快で軽妙な司会の下、総会に入りました。まず始めに、芝原会長が、遠路はるばるお越しいただいたご来賓の方々への感謝の気持ちと川辺高校の置かれた厳しい状況に鑑み、教職員、在校生、卒業生、地域住民が一体となつ



て同校の発展に尽力したいと決意を述べられ、「大いに同窓会を盛り上げましょう。」と結ばれました。

続いて、宮原楊子同窓会監事が明るく澄んだお声で挨拶に立たれました。まず、大坪憲市同窓会会長の本校に対する熱き思いをお伝えされるとともに、他県の同窓会の状況、中高一貫教育を視野に入れた具体的な取り組み、部活動のなぎなた部、野球部、水泳部等の活躍の数々の紹介がありました。続いて、小屋敷浩昭校長先生より、生徒数減少に伴う現状とその対応策、とりわけ近隣学校に負けない関係中学校との連携の在り方、将来を見据えた川辺高校の姿等を熱く語られました。特に、全生徒の学力向上・部活動の活性化、家庭や地域との連携を図った教育指導の充実など熱く熱く話されました。教職員が心を一つにして、歴史と伝

統ある川辺高校の再生に取り組まれることを強調されました。最後に、「母校がさらなる発展を遂げられるよう本支部のご支援を賜りたい。」と語られました。

同窓会事務局長の中尾龍二先生からは、進路指導の実績、生徒の部活道への真摯な取り組み、文武両道の実践により優れた人材が確実に育ってきていることなどが具体例を列挙されて分かりやすく話されました。母校の輝かしい伝統と在校生の多方面での活躍の数々等を話題に焼酎を酌み交わしながら、本同窓会は大変な盛り上がりを見せました。また、お一人お一人の

ユーモアに満ちた近況報告もあり、「やつぱり、同窓会はいいなあ。来年も元気でまた会いたい。」など話すうちに閉会に近づいていました。

恒例となつて田代和民氏の音頭により、前述の通り旧校歌及び新校歌を四番まで声高らかに歌い上げ本会はお開きとなりました。来年の同窓会は、三年に一度となり、都城の地にて行うことになっています。泊直十郎副会長に大変お世話になることとなります。最後に母校並びに同窓会の益々のご発展を祈念申し上げまして宮崎同窓会の報告とさせていただきます。

川 辺 同 窓 会

桑水流 純信
(平成四年卒)

川辺高校同窓会総会が、平成二六年八月二日に「ひろせ」で盛大に開催されました。今年の幹事は、男性

が平成四年の卒業生、女性では平成一三年の卒業生が担当幹事となり準備等を行ってきました。当日は、南九



州市内外から九〇名余りの参加者をお迎えすると共に、学校関係者の御出席も頂き盛大な同窓会を開催することができました。

総会では、大坪憲市同窓会会長、小屋敷浩昭校長先生の挨拶で始まり、平成二五年度の会務報告や会計収支決算及び監査報告、平成二六年度事業計画案・収支予算案等が審議され、全て承認され総会を閉じました。

続いて懇親会が開催され、代表幹事挨拶のあと、かわなべ磨岸仏太鼓による

オープニング演奏で始まり、力強い太鼓の演奏に引き込まれていました。

続いて、乾杯の音頭を加治佐幌鹿兒島同窓会副会長が行い、久しぶりに再会した同級生や先輩方との思い出話に花を咲かせていました。更に、川辺フィルハーモニー管弦楽団のメンバーによる管絃四奏が行われ、校歌をはじめ懐かしいメロディで盛り上げていただきました。

また、参加されている学校関係者の紹介や、日頃の生徒の様子や部活動の活躍なども紹介していただきました。歓談の締めは、恒例となります

ります参加者全員での旧制川辺中学校歌、川辺高等学校校歌を斉唱し、川辺高校の今後の更なる発展を祈念

し、上東書三南さつま地区同窓会会長の御発声により、参加者全員で万歳三唱を行いました。

会の最後は、来年の幹事を代表して南部建氏が、同窓生皆さんとの来年再会できることを祈念しての挨拶で幕を閉じました。

今回の同総会開催にあたり、幹事として準備が行き届かないところも多々あったかとは思いますが、同窓会会長をはじめ役員の方々、同総会事務局の先生方や関係各位の皆様の御協力により盛会に終わりましたことを深く感謝申し上げます。

最後になりますが、川辺高校及び同窓生の皆様への更なる発展を御祈念致しまして報告とさせていただきます。

南九州市職員職員神戈陵会

橋口 和久
(昭和五七年卒)

第三五回南九州市職員神戈陵会を平成二七年六月二

日「宴会オカノ」において開催しました。

総会は、楠原万介会長のあいさつの後、二六年度事業経過報告、収支決算の報告及び規約改正、二七年度事業計画、収支予算、新役員等が提案されました。

事業経過は、川辺同窓会参加や会員親睦会の開催、母校への支援等について報告され、事業計画は、次年度も引き続き母校及び在校生への活動支援を実施することや記念事業へ向けた支援積立と会員親睦会の実施などが提案され、満場一致で可決されました。

役員改選では、新会長に東成功さん、副会長に神蘭省吾さんが選出され、第三五回総会は盛会のうちに終了しました。

引き続き開催された懇親会は、会員のほか高田政雄同窓会副会長、小屋敷浩昭校長ほか三名の先生方に参加をいただき、総勢六九名の参加となりました。新会長から力強いあいさ

つその後、高田同窓会副会長から会員子弟の母校への進学促進等のお願いがなされ、小屋敷校長からは本年度一〇四名の新入生があったこと、各同窓会、学校だより、加世田高校との第一回スポーツ交歓会、概況説明、部活動などについて報告がありました。

本会顧問の霜出勘平南九州市長の音頭で乾杯すると、職場が川辺、知覧、頤娃庁舎と普段会員同士会うことが少なく、久しぶりに一堂で会したこともあり、年代を超えた語らいの場となりました。また、本年度新規加入の平木場幸さん、今辻銀二さん、松蘭宏貴さん、有蘭由香さん四人と今

回参加された高校の先生方の紹介がありました。

参加者は時が経つのも忘れ、顧問の霜出市長と鶴田副市長、高田同窓会副会長、小屋敷校長や先生方にも最後までお付き合いただいた、大いに盛り上がった懇親会となりました。

最後に新副会長が、八月開催予定の川辺同窓会へ多くの参加を呼びかけて閉会しました。

平成二七年度の会長は川辺庁舎、副会長は知覧庁舎、書記会計は頤娃庁舎と三庁舎それぞれの勤務となり、会員の親睦や母校への支援活動に向け更なる活動を展開していくことと思います。

出席者は会員二七人、母校から六人の合計三三人とかつてない少なさでしたが、狭い会場のせいにか逆に濃密な時間を堪能することができました。

まず、椎原耕会長（昭和二六年卒）があいさつ。「後任の会長候補の急きょ海外赴任が決まった。続投することになったのもう一回、皆さんのご協力をお願いしたい」。

本部同窓会の大坪憲市会長（昭和四一年卒）が祝辞。「母校がいい形で盛り上がってきている。入学者が2年続きで九〇人台だったがことしは一〇四人。地元の川辺、知覧からの受験生が増えている」

小屋敷浩昭校長が母校の現況と同窓会活動を報告。「全国各地の同窓会に参加して毎回、温かい言葉を頂き感謝している。地域、保護者も温かい。生徒は素直でまじめ。職員の指導によ

鹿児島同窓会

事務局長
寺師 慶志
(昭和四一年卒)

小ぢんまり、濃密に
鹿児島同窓会の平成二七年度「神戈陵のつどい」(総

会・懇親会は七月二五日(土)、鹿児島市のジェイドガーデンパレスで開きました。



く乗ってくれる」学校案内のパンフレット「君が変わる」を手にし「君で変わる」を手にしながら「自分自身の主体的な意思で学校でいろんなことができる。学校はそういう環境を整えている」。

このパンフレットを中学生、保護者に配布しており、「生徒の明るい、充実した表情の写真をふんだんに使った。校長、教頭の写真は一枚ありません」と

会場の笑いを誘いました。総会承認事項の収支決算・会務報告(事務局)、会計監査報告(監事・栃木壮次さん)はいずれも原案通り承認されました。事務局から、年会費の振込状況、総会の欠席状況について説明しました。

副会長の窪田マリ子さんが懇親会の乾杯を「発声。『こんなささやかな会は初めて。小さな胸をほんとに痛めています。でも、きょう出席できたみんな幸せな方ばかり。今宵は友情、絆を深め、楽しい会にしましょう』」懇親会は出し物、余興なし、校歌斉唱だけでしたが、大いに酒を酌み交わし、じっくり語り合い、中締め・本締めるほど盛り上がりました。

鶴野甚吉さん(最長老)が万歳三唱、柳誠子さん(最年少)が閉会のことばをそれぞれ力強くつとめられました。

南さつま地区神戈陵会

幹事 中馬 悟
(昭和五十二年卒)



田地区中心部でレストランを経営する今村勝徳氏(昭和三十九年卒)のブルドッグに総勢二十名の関係者が集まりました。

今回は学校側より、大坪憲市同窓会会長様および校長の小屋敷浩昭校長先生、野中康博PTA副会長様、前田利久教頭先生、畦地茂行事務長先生、渡辺裕介先生の六名の皆様にご出席くださいました。

開会のあいさつを上東会長が行ったあと、大坪同窓会長様に同窓会の活動状況の説明を頂き、小屋敷校長先生には、学校側で作成された学校概況説明資料をもとに説明をいただきました。お二人とも入学生の減少が一番の課題である。部活動では、なぎなた部・水泳部が全国大会に出場する

など、日頃の練習成果がでて今後が楽しみである。との報告でした。卒業生の皆様には今後共ご支援ご協力をお願いしたいとのことでした。

以上で全体会が終わり、続いて西浩二幹事長(昭和四十八年卒)が懇親会開会のあいさつを行い、入学者は減少しているが、特色のある学校作りを行い、地域に根ざした母校の発展を今後も願っていますので、今後も頑張ってください、と激励されました。次に、乾杯を福本拓郎氏(昭和三十八

年卒)が行い、二部の懇親会開宴の部が始まりました。

母校の縁で集まった皆様も時間の経過とともにさらに盛り上がり、気がつけば三時間ほど過ぎてしまいました。

最後に坂下勝昭監事(昭和三十一年卒)の一本締めで盛会のうちに終了しました。

最後になぎなた部・水泳部が全国大会に出場とのこととで、会員に寄付金を呼びかけ小屋敷校長先生にお渡しいたしました。

還暦同窓会

高田 政雄
(昭和四十八年卒)

平成二六年十一月二日(日)に昭和四十八年卒業生の還暦同窓会を鹿児島市の城山観光ホテルで、同級生八六名、恩師の野間清光先生、池田孝先生、と現校長の小屋敷浩昭校長先生にも

ご参加いただき総勢八九名で開催しました。

当日は、会場で還暦の厄払いの神事、記念撮影の後、祝賀会がスタートしました。先ず実行委員長のあいさつに続き、小屋敷浩



昭校長先生から川辺高校の現状を詳細に説明していただきました。次に恩師の野間清光先生、池田孝先生からは、おもいで話や激励の言葉をいただきました。お二人ともとてもお元気で、逆に我々に元気を与えていただいたような気がしました。

す。

また、二次会では歌好きも多くカラオケも楽しみました。二次会では足りずに、ホテル内で急きょ三次会もあり、何時間あつても語りつくせない楽しい一時を過

ごすことが出来ました。やはり同級生とはいいいいものです。次回の開催についての要請もあつたようですが、年齢を考えて検討したいとは思っています。

東 海 同 窓 会

隔年ごとに行われる東海同窓会が、平成二六年一月四日(土)名古屋熱田区の「賀城園」で開催されました。本部同窓会からは東海同窓会の設立から関わってきた宮原楊子同窓会監事が、本校からは小屋敷浩昭校長先生と同窓会係中尾龍二(昭和五二年卒)が出席しました。宮原楊子監事にとっては、一二年ぶりの名古屋訪問となりました。

飯野布志夫会長(昭和二六年卒)のお見舞いに行きました。会長も宮原幹事との久しぶりの再会を喜んでおられました。その場で、宮原監事から、母校へ寄贈された著作集と八月の本部同窓会総会時の著作集販売の収益金の寄付のお礼もありました。一日も早くお身体が回復し、お元氣になられることを心からお祈りいたします。

その後、会場の「賀城園」に向かいました。今回の参加者は、我々三名を含めて一二名での総会となりました。神野幹事長の進行のもと、会長に代わって挨拶された日置宏輔副会長(昭和三三年卒)は、年を経るに従って参加者が少なくなっているが、この会を盛り上げていきたいと話されました。小屋敷校長先生からは、部活動や進路状況の報告があり、最後に、「学校はいつでもウェルカムです。今も日置先生の絵が飾られている母校を訪問し当時のたたずまいを感じてくださ」と締めくくりました。

総会に引き続き、懇親会に移り、川野武弘さん(昭和三七卒)の乾杯の挨拶の後、二年ぶりに再会したお互いの近況報告や当時の思い出話などに花を咲かせました。宴の途中では、顔が赤くならないうちにと記念撮影も行われました。一二時から始まった会はあつという間に予定していた時間を過ぎていました。宴の最後に、参加できな



かった大坪本部同窓会会長に代わり宮原幹事から、川辺高校はピンチをチャンスに変えつつあるときである。東海同窓会の皆様もお力添えを賜りたいという旨の話があり、二年ぶりに再会を果たした楽しい宴は閉会となりました。

最後に、貴重な時間を過ごさせていただきましたことに感謝し、ここに報告いたします。

※この記事は本校ホームページに掲載したものを再掲したものです。

部活動報告

【テニス部】

部長 二年 橋本 愛衣

私たち川辺高校テニス部は、男子七名、女子八名で練習しています。今年の春から女子テニス部の顧問をしていただいている鮫島先生と男子テニス部の顧問の神園先生のご指導のもと、男女それぞれ少しでも他の学校より強くなるために頑張って練習しています。

雨の降る日は渡り廊下などを利用して、トレーニングを行って体力作りをしています。五月に



区大会では、自分たちの実力がどこまでかを思い知らされ涙を流してしまいました。その時の気持ちを忘れないで日々の練習に励んでいます。私は「勝ち負け」ではなく、「精一杯やれたか」を重視しています。女子、男子「切磋琢磨」しながら、上へ上へと目指し、皆さんが応援したくなるようなテニス部にしたいと思っています。これからも私たちの成長を、優しく見守っていただけると嬉しいです。

【バレーボール部】

二年 有村 朋恵

私たちバレーボール部は顧問の渡辺先生のご指導のもと、日々の練習に励んでいます。今年は元気な七名の一年生が入部し、十名で活動しています。とても明るい雰囲気、自分たちの大好きなバレーボールに打ち込むことができています。新チームとなって一ヶ月が経ちましたが、先輩方が達成できなかった目標を目指し、日頃の生活態度から自分たちを見つめ直し応援されるチームを目指して頑張っています。掃除では、限られた時間でも

こが汚れているのか気づく訓練という意識で行っています。これがバレーボールでも相手コートのだこが空いているのか気付くことにもつながり、日頃から



考える癖をつけ、考えたプレーにつながります。そして、意見を持つことで、自分の判断でプレーをし、仲間に声をかけたりすることもできます。

他の学校よりも練習時間は限られていますが、それを補うために日頃の生活からしっかりとし、自分たちの立てた大きな目標が達成できるように頑張っています。

未来に向けて

文化祭実行委員長
3年 中村めぐみ



今年の文化祭は新たな取り組みも数多くあり、新鮮な文化祭となりました。一年生の展示部門は平和という共通のテーマに基づき、三クラスが違った表現方法で作品を作り上げました。地道な作業の根気強さを感じられ、とても感動しました。バザー部門の二年生はクラスの枠を取り払い、地



区ごとの特産物を販売しました。思わぬゆるキャラ登場に生徒だけではなく、保護者や地域の方々もバザーを楽しんでいました。毎年恒例の「かあちゃん食堂」も大盛況となりました。ステージ部門では、三年生各クラスが絆を見せつける劇を発表し、書道部の迫力あるパフォーマンス、ES



S部のユーモアあふれる映像、音楽部の美しい演奏、一般参加によるバンドやダンスが行われました。初の試みとしてPTAの方々と構成された「おやじバンド」は普段見ることのない姿に生徒たちも釘付けでした。武道館で行われた作品展に研究発表、理科の実験コーナーも生徒の心を掴みました。



最後のフィナーレ。今年最後の合唱曲はCreedenceの「Pride」でした。全校生徒や先生方が画用紙に歌詞を書き、文化祭実行委員によって撮られた写真がスクリーンに上映されました。笑顔で映るみんなの顔と今まで努力してきたことが思い出され、思わず涙してしまいました。そして、この瞬間みんなが一体となった実感が湧いてきました。



最後に、文化祭成功に向けた準備をしてきた先生方や生徒会、文化祭実行委員会に感謝します。私は三年間文化祭実行委員を務めさせていただきましたが、今年の文化祭ほど楽しいものはありませんでした。きっとこれからも川辺高校は伝統ある学校として進化していくことでしょう。最高の思い出と共に、残り少ない学校生活を過ごしていこうと思います。

事務局だより

【平成二十六年神戈陵教育振興会奨学生決定の報告】

平成二十六年度「神戈陵教育振興会奨学生」として、二年生の田中那津美さん（加世田中卒）、實代春花さん（知覧中卒）、池田康朗（知覧中卒）、中村友美（知覧中卒）、一年生の田口真耶さん（川辺中卒）、北健太君（川辺中卒）、西亜弥さん（川辺中卒）に決定し、認定書及び奨学金が交付されました。

【平成二十七年度のスタート】
四月七日（火）、第七十回入学式が本校体育館で行われ、新入生一〇四名を迎え、全校生徒二九二人（男子百二十四名 女子百七十三人）で平成二十七年がスタートしました。



また、当日、校長室で優秀な成績で入学した菊永侑樹菜さん（知覧中卒）、前田千里さん（知覧中卒）、川下永遠さん（頤娃中卒）、駒水光助君（知覧中卒）、松崎悠太君（枕崎別府中卒）に、神戈陵教育振興会から認定書及び奨学金が交付されました。

【創立記念講演会】

四月二十五日（土）、創立記念講演会が開かれました。今回は、学校法人光徳寺学園川辺幼稚園・かつめ保育所理事長の三木隆朋氏（昭和六十一年卒）をお招きし、「子どもを見つめて分かること」という演題で講演いただきました。

講演では、高校時代の思い出話や幼児教育から感じたことなど、様々な視点から話して下さいました。「何気ないことから自分が見えてくる。そのきっかけは高校の様々な場所や場面に転がっている。」「一度で良いから、本気で全力疾走しましょう。未来はあなたたちのものです。」と話され、後輩たちにエールを送っていただきました。



【お知らせ】

平成二十七年

中学生川辺高校体験入学

七月二十四日（金）

八十九名 保護者十名

八月二十日（木）

一〇三名

保護者十三名（予定）

多くの方の受験をお待ちしています。



【平成二十七年神戈陵教育振興会奨学生決定】

七月十三日（月）、三年生を対象にした神戈陵奨学生の選考委員会が開かれ、宮原晶宏君（知覧中卒）、中村莉菜さん（桜山中卒）、桑代悠希菜さん（知覧中卒）の三名に決定し、七月十七日（金）、校長室で交付式を行いました。



収入の部

平成26年度 川辺高等学校同窓会決算書

(単位：円)

費 目	当初予算額	予算現額	決算額	比 較	備 考
入 会 金	120,000	120,000	104,000	△ 16,000	1,000 円× 104 人(新入生)
会 費	184,000	184,000	184,000	0	2,000 円× 92 人(卒業生)
総 会 費	370,000	370,000	314,000	△ 56,000	同窓会総会参加費
繰 入 金	1,500,000	1,500,000	1,146,208	△ 353,792	
繰 越 金	682,706	682,706	682,706	0	25 年度からの繰越金
雑 収 入	294	294	20,109	19,815	寄付金・利息
合 計	2,857,000	2,857,000	2,451,023	△ 405,977	

支出の部

(単位：円)

費 目	当初予算額	充用額	予算現額	決算額	比 較	備 考
総 会 費	450,000	45,678	495,678	495,678	0	同窓会総会費、案内チラシ代他
会 議 費	30,000		4,000	4,000	△ 26,000	役員会などの会議費
需 用 費	120,000		96,338	96,338	△ 23,662	会報印刷代他
通 信 費	15,000		5,650	5,650	△ 9,350	切手、はがき代
慶 弔 費	100,000		62,048	62,048	△ 37,952	転退職員記念品代他
旅 費	400,000		385,178	385,178	△ 14,822	東京、大阪、福岡同窓会などの旅費
負 担 金	250,000	14,000	264,000	264,000	0	各地区同窓会等への負担金他
高校振興費	1,300,000		913,462	913,462	△ 386,538	活性化対策事業補助 500,000 円 文化祭補助 50,000 円 その他高校の振興に関する費用
雑 費	50,000		31,470	31,470	△ 18,530	各地区同窓会等への土産代他
予 備 費	142,000	△ 59,678	0	0	△ 82,322	
合 計	2,857,000		2,257,824	2,257,824	△ 599,176	

収 入 2,451,023 円 支 出 2,257,824 円 繰越金 193,199 円 (27 年度へ繰越)

特別基金 川辺高校同窓会 (鹿児島銀行：定期預金) 3,092,071 円
 特別基金 川辺高等学校創立百周年記念事業 (ゆうちょ銀行：定期預金) 4,010,944 円
 特別基金 110 周年川辺高校活性化基金管理金 (ゆうちょ銀行：定期預金) 6,028,763 円

収入の部

平成27年度 川辺高等学校同窓会予算書 (案)

(単位：円)

費 目	本年度予算額	前年度予算額	比 較	備 考
入 会 金	120,000	120,000	0	1,000 円× 120 人(新入生)
会 費	182,000	184,000	△ 2,000	2,000 円× 91 人(卒業生)
総 会 費	350,000	370,000	△ 20,000	同窓会総会参加費
繰 入 金	2,092,071	1,500,000	592,071	積立基金より
繰 越 金	193,199	682,706	△ 489,507	26 年度からの繰越金
雑 収 入	730	294	436	利息など
合 計	2,938,000	2,857,000	81,000	

支出の部

(単位：円)

費 目	本年度予算額	前年度予算額	比 較	備 考
総 会 費	500,000	450,000	50,000	同窓会総会費他
会 議 費	30,000	30,000	0	役員会など会議費
需 用 費	120,000	120,000	0	会報印刷代他
通 信 費	15,000	15,000	0	切手、はがき代
慶 弔 費	100,000	100,000	0	転退職員記念品代他
旅 費	400,000	400,000	0	東京、大阪、福岡同窓会などの旅費
負 担 金	250,000	250,000	0	各地区同窓会等への負担金他
高校振興費	1,200,000	1,300,000	100,000	活性化対策事業補助 500,000 円 文化祭補助 50,000 円 その他高校の振興に関する費用
雑 費	50,000	50,000	0	各地区同窓会等への土産代他
予 備 費	273,000	142,000	131,000	
合 計	2,938,000	2,857,000	81,000	

各地区同窓会連絡先

事務局 川辺高等学校

TEL0993-56-1151

〒897-0221 鹿児島県南九州市川辺町田部田4150 FAX0993-56-1152

川同窓会	辺会	会長	高	18
		副会長	高	13
		副会長	高	13
		副会長	高	14
		副会長	高	15
		副会長	高	16
		副会長	高	20
		副会長	高	24
		副会長	高	25
		副会長	高	25
		副会長	高	26
		副会長	高	29
		副会長	高	29
		副会長	高	30
		副会長	高	30
		東同窓会	京会	会長
副会長	高			33
副会長	高			33
副会長	高			36
副会長	高			40
副会長	高			26
副会長	高			14
副会長	高			18
副会長	高			23
副会長	高			37
副会長	高			57
副会長	高			11
副会長	高			13
副会長	高			15
副会長	高			27
東同窓会	海会			会長
		副会長	高	7
		副会長	高	10
		副会長	高	22
		副会長	高	16
		副会長	高	6
		副会長	高	15
		副会長	高	18
		副会長	高	20
		副会長	高	19
		副会長	高	20
		副会長	高	26
		副会長	高	2
		副会長	高	15
		副会長	高	34
		宮同窓会	崎会	会長
副会長	高			14
副会長	高			20
副会長	高			11
副会長	高			3
副会長	高			2
副会長	高			5
副会長	高			5
副会長	高			6
副会長	高			7
副会長	高			12
副会長	高			7
副会長	高			13
副会長	高			15
副会長	高			44
鹿同窓会	島会			会長
		副会長	高	13
		副会長	高	27
		副会長	高	29
		副会長	高	25
		副会長	高	30
		副会長	高	24
		副会長	高	18
		副会長	高	39
		副会長	高	1
		副会長	高	24
		副会長	高	10
		副会長	高	10
		副会長	高	10
		副会長	高	10
		南同窓会	地区会	会長
副会長	高			27
副会長	高			29
副会長	高			25
副会長	高			30
副会長	高			24
副会長	高			18
副会長	高			39
副会長	高			1
副会長	高			24
副会長	高			10
副会長	高			10
副会長	高			10
副会長	高			10
副会長	高			10
知同窓会	地区会			会長
		副会長	高	27
		副会長	高	29
		副会長	高	25
		副会長	高	30
		副会長	高	24
		副会長	高	18
		副会長	高	39
		副会長	高	1
		副会長	高	24
		副会長	高	10
		副会長	高	10
		副会長	高	10
		副会長	高	10
		副会長	高	10
		枕崎同窓会	坊津区会	会長
副会長	高			27
副会長	高			29
副会長	高			25
副会長	高			30
副会長	高			24
副会長	高			18
副会長	高			39
副会長	高			1
副会長	高			24
副会長	高			10
副会長	高			10
副会長	高			10
副会長	高			10
副会長	高			10

結成予定 鹿屋地区同窓会・川内地区同窓会・指宿地区同窓会・加治木地区同窓会